

# 平成22年度に係る部局達成状況評価書

## — 全体の項目に関する達成状況 特記事項一覧 —

### ●附属図書館

英語・中国語・韓国語の図書館利用案内のウェブサイト構築する(項目29-2-9)など積極的に取り組んでいる。

### ●文学研究科・文学部

国内外の大学に在籍する日本語学習者を対象とする日本語超短期プログラム「人文学のための日本語(Japanese for Humanities)」を開講する(項目17-5-1)など、積極的に取り組んでいる。

### ●人間科学研究科・人間科学部

教育改革推進室により、学生の国際学会での発表や、調査研究の支援に積極的に取り組んだ結果、大学院生が15件の学会賞等を受賞する(項目6-4-1)などの成果をあげている。

### ●外国語学部

障害を持つ学生についての対応状況の把握や、学部公認団体への活動サポート(項目6-2、6-3)など学生支援に積極的に取り組んでいる。

### ●法学研究科・法学部

計画室、研究推進室等の「室」を設置する(項目8-1-1、項目17-5-1)など積極的に取り組んでいる。

### ●経済学研究科・経済学部

グローバルCOEプログラム「人間行動と社会経済ダイナミクス」に基づき、行動経済学の研究が推進する(様式2)など、成果が上がっている。

### ●理学研究科・理学部

グローバル30(項目1-3)、大学院教育改革支援プログラム(大学院GP)(項目2-1)、グローバルCOEプログラム等各種研究プロジェクト(項目8-2)など教育、研究ともに着実に実施するとともに、学部入試選抜方法(項目3-2)の改革について積極的に取り組んでいる。

### ●医学系研究科・医学部(医学科)

PET分子イメージングセンターの設立(項目8-1-1)、グローバルCOEプログラムの推進(項目8-2-1)など積極的に取り組んでいる。

### ●医学系研究科・医学部(保健学科)

ツインリサーチセンターを基盤にしたプロジェクト研究(項目8-2-1)など積極的に取り組んでいる。

### ●医学部附属病院

改善指摘事項も全くない状況で病院機能評価Ver.6の認定を受ける(項目15-1-1)など積極的に取り組んでいる。また、臓器移植改正法が施行されるにあたり、全国に先駆けて、改正法施行後の脳死臓器提供のシミュレーションを施行し、臓器移植に積極的に取り組んでいる(様式2)。

### ●歯学研究科・歯学部

入学定員の適正化(項目3-2-1、17-3-1)、市民フォーラムの実施(項目11-1-1)など特筆すべき取り組みを行っている。

### ●歯学部附属病院

近未来医療センターでの診療開始(項目14-2-1)、CPセンターの整備(様式2)など、積極的に取り組んでいる。

### ●薬学研究科・薬学部

組織的な大学院教育改革推進プログラム等、各種プログラムの推進、さらには文部科学省最先端研究基盤事業での採択(項目9-2-2)など特筆すべき取り組みを行い、大学の実績として評価できる。

### ●工学研究科・工学部

インターンシップオンキャンパス(項目2-2-1、4-1-1)、グローバルCOEプログラムの順調な遂行(項目8-1-1~8-3-1)、共同研究講座の推進(項目11-1-1)、事務の効率化(項目19-1-1、19-2-1、様式2)など、積極的に取り組んでいる。

### ●基礎工学研究科・基礎工学部

教員業績評価の実施及びその結果を業績手当に反映させる(24-1-2)など、積極的に取り組んでいる。

### ●言語文化研究科

教育研究組織の改革案(項目17-3-1)や全学の言語教育改革を推進していく計画を立てる(様式2)など積極的に取り組んでおり、着実な成果が上がることが期待される。

### ●国際公共政策研究科

新規に採択された「頭脳循環を活性化する若手研究者等海外派遣プログラム」を活用して「東アジア連携推進室」を立ち上げる(項目13-1-1)など特筆すべき取り組みを行っている。

### ●情報科学研究科

教育において概算要求が認められる(項目2-1-2)とともに、研究においてもグローバルCOEプログラム、CREST、ERATO等の取り組みを推進する(項目8-2-4)など、積極的に取り組んでいる。

### ●生命機能研究科

(独)情報通信研究機構と(独)理化学研究所の両プロジェクトの推進(項目17-1-1)など積極的に取り組んでいる。

#### ●高等司法研究科

電子学生カルテシステムや GPA 制度の導入準備を進め（項目 5-1-1）、積極的なオフィスアワーを行う（項目 6-1-1）など積極的に取り組んでいる。

#### ●連合小児発達学研究科

子どものこころの分子統御機構研究センターを連合小児発達学研究科附属とすることにより教員間の交流・連携を強化し、研究科が主導する新しい学際領域を発展させる（項目 17-3-1）など適切に実施している。

#### ●微生物病研究所

大学間連携事業「病因遺伝子機能解析ネットワーク」の大阪大学拠点として「生体応答遺伝子解析センター」を設置し、ヒト疾患関連のノックアウトマウスの作成と表現型解析を開始する（様式 2）など積極的に取り組んでいる。

#### ●産業科学研究所

全国 5 研究所によるネットワーク型共同研究拠点の拠点本部として、5 研究領域部会を設置し拠点活動の基盤を確立する（項目 10-1-1）など、積極的に取り組んでいる。

#### ●蛋白質研究所

プロジェクト研究の推進とともに、950MHz 超高磁場液体 NMR 装置が、予想を上回る高い成果を上げる（項目 8-2-1）など成果が上がっている。また、大型予算を取得した研究者への支援として、間接経費などの申請・審査システムの確立、事務職員の追加配置（項目 9-3-1）など積極的に取り組んでいる。

#### ●社会経済研究所

国立大学准教授に 1 名、私立大学准教授に 2 名、金融庁職員に 1 名が就職する（様式 2）など教育の成果が上がっている。また、多数の論文発表、招待講演等の成果を上げる（項目 8-1-1）、など研究に特化した部局として積極的に取り組んでいる。

#### ●接合科学研究所

研究プロジェクトの実施（項目 8-2-1）、外部資金獲得実績の向上（項目 20-1-1）、業績評価の結果を研究費配分へフィードバックする（項目 17-5-1）など積極的に取り組んでいる。

#### ●低温センター

ヘリウムガスのリサイクル利用を促進し、安価で安定した液体ヘリウムの供給（項目 9-3-1）など積極的に取り組んでいる。

#### ●超高压電子顕微鏡センター

学内外あわせて 75 件の共同利用・共同研究を実施する（項目 10-1-1）など積極的に取り組んでいる。

#### ●ラジオアイソトープ総合センター

放射線障害防止法が規定する教育訓練（延べ 24 回、受講者 2,553 名）を実施する（項目 27-2-1）など積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。

#### ●環境安全研究管理センター

薬品管理支援システム(OCCS)の管理、運営を適正に行うとともに、物品納品確認（検収）システムでの一部利用（項目 27-2-1）など積極的に取り組んでいる。

#### ●国際教育交流センター

来日対象者のオリエンテーション、受け入れ担当者説明会等を開催し、サポートオフィスの活動を軌道に乗せる（項目 13-1-1）など積極的に取り組んでいる。

#### ●生物学国際交流センター

ユネスコの conference 事業を実施し東南アジア諸国の研究者と連携を深める（項目 8-2-1、項目 8-3-1）など積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。

#### ●極限量子科学研究センター

ランニングコストの削減のため、クリーンルームの空調の改修を行う（項目 22-1-1）など経費削減に積極的に取り組んでいる。

#### ●太陽エネルギー化学研究センター

グローバル COE プログラム「生命環境化学グローバル教育研究拠点」へ参画して持続可能な社会の実現を目指した研究を推進する（項目 8-2-1）など積極的に取り組んでいる。

#### ●総合学術博物館

企画展および特別展を開催するとともに、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなどを開催する（項目 8-1-1、12-1-1）とともに、これらの発信によりテレビ、新聞などの取材回数が増える（様式 2）など成果が上がっている。

#### ●大学教育実践センター

ステューデントコモンズの利用者が飛躍的に増加し、双方向型授業等の実施に活用される（項目 5-1-1）など特筆すべき取り組みを行い、大学の実績として評価できる。

#### ●先端科学イノベーションセンター

次世代の産業イノベーションに繋がる重点プロジェクトの推進（項目 8-2-1）及び産学官連携の推進、知的財産の取り組み、学内研究者活動などの紹介・発表への協力（項目 11-1-1）など積極的に取り組んでいる。

#### ●保健センター

国立大学法人保健管理施設協議会の分科会であるフィジカルヘルスフォーラムを開催し、大学の安全衛生管理について、シンポジウム等を開催する（様式 2）など積極的に取り組んでいる。

#### ●臨床医工学融合研究教育センター

「医・工・情報連携によるハイブリット医工学産学連携拠点整備事業」が採択され推進の準備を開始する（項目 8-1-1、8-2-1）など積極的に取り組んでいる。

#### ●コミュニケーションデザイン・センター

人間科学研究科や文学研究科、工学研究科等との連携によるプログラムの新規構築の可能性を検討する（項目 2-2）など積極的に取り組んでいる。

#### ●金融・保険教育研究センター

学内から 4 研究科の兼任教員及びセンター所属の特任教員、学外から公的・民間金融機関、各種専門家団体所属の実務家教員など多様なバックグラウンドを持つ教員を配置して、基礎的なものから先端的、実践的なものまで様々なプログラムを提供する（項目 4-1-1）など積極的に取り組んでいる。

#### ●科学教育機器リノベーションセンター

63 機種のリユース設備機器について 339 件（前年度 213 件）の部局間利用があり、また、学外利用にも供している 5 機種については 6 件利用される（項目 9-3-1）など積極的に取り組んでいる。

#### ●グローバルコラボレーションセンター

既存の高度副プログラムに加え、新たに「現代中国研究」を試行し、3つの高度副プログラムを新たに構築し、平成 23 年度から施行することを決定するとともに、海外体験型オフィス（FIELD O）を設置し、海外フィールドスタディ・プログラムを試行する（様式 2）など特筆すべき取り組みを行い、大学の実績として評価できる。

#### ●世界言語研究センター

教員業績評価基準を見直し、より広く教員の諸活動を評価できる制度として実施する（項目 24-1-1）など適切に実施している。

#### ●日本語日本文化教育センター

基礎研究を推進するため、特別研究費 I（学会発表等出張補助費）及び特別研究費 II（競争配分研究補助費）を設置し、それぞれ 7 件を採択したほか（様式 2）、「マンチェスター大学との教育効果に関する共同調査プロジェクト」を立ち上げ、マンチェスター大学教員との相互訪問を実現し、センターに在籍した同大学学生に対する教育効果を共同で調査する（様式 2）など積極的に取り組んでいる。

専任教員の自己点検評価を実施し、評価に応じた研究費の配分を行う（様式 2）など適切に実施している。

#### ●環境イノベーションデザインセンター（旧サステイナビリティ・デザイン・センター）

低炭素キャンパス部門を新たに設置するとともに、キャンパスの省エネの実践（電気消費量計測装置等を学内に設置）と研究（学内教員による研究会を 3 回開催）、またその成果を教育（エコキャンパスツアー、教養科目での講義等）に還元する（項目 26-2-1）など積極的に取り組んでいる。

#### ●ナノサイエンスデザイン教育研究センター

大学院高度副プログラムの博士前期課程の副専攻化（14 単位）が承認され、平成 23 年度から実施する体制を整える（項目 1-2-1）など特筆すべき取り組みを行っている。

#### ●知的財産センター

企業の知的財産戦略実務経験者による実務科目の開講（項目 7-1-1）など積極的に取り組んでいる。

#### ●核物理研究センター

陽子ビーム量当たり世界最高のミュオンを得る（様式 2）など特筆すべき取り組みを行っている。

#### ●サイバーメディアセンター

大学教育のグローバル化に対応した FD 支援事業（通称 GFD）では、教員用自習教材「Let's teach in English」の開発をすすめ、開発した教材を順次 WebCT 上で公開する（様式 2）など積極的に取り組んでいる。

#### ●レーザーエネルギー学研究センター

重点プロジェクトによる研究（項目 8-1-1、8-2-1）や共同利用促進による社会貢献（項目 11-1-1）など適切に実施している。

#### ●免疫学フロンティア研究センター

センターの重点プロジェクト研究について顕著な論文業績を上げるとともに（項目 8-2-1）、多彩な国際シンポジウムを開催する（項目 13-2-1）など積極的に取り組んでいる。

#### ●学際融合教育研究センター

高度副プログラム・副専攻プログラムの機能追加及び拡充を図る（項目 2-2-1）など積極的に取り組んでいる。